**４０年会　スペッシャル企画**

**武村八重子のピアノコンサート**

**赤坂サントリーホール　大ホールでの武村八重子コンサート。**

**第２部では彼女の卓越したピアノでショパンの名曲をたっぷりと鑑賞**

”クラシックの殿堂”赤坂のサントリホール大ホールで、６月９日（木）午後６時３０分からピアニストの武村八重子さんが教え子と共に「Ｅｖergreen Dream」と冠の付いたコンサートを開催した。武村八重子さんは2005年 の第２１回ショパン国際フェスティバルで世界６人のソリストに選ばれ、帰国後も銀座シャネルホールでのソロコンサートやBSフジの「ヒトカド」などで活躍し、”ショパン弾き”の第一人者である。その彼女は４０年会の副会長である武村宏一郎君の娘さん。「５歳から音大の先生のレッスンを受けてました。所沢の自宅にはグランドピアノ２台と普通のピアノが1台あり、3台のピアノで毎日練習に励んでましたね」と父親は話す。今年４月の総会後の懇談会で「娘のコンサートにはご希望の方を招待します」と挨拶。チケット代金は７５００円。それをご

招待とは、出席者が万雷の拍手で応えたことは言うまでもない。５月の幹事会では、常任幹事の前田紘子さんが「誠にお目出たいお話。有志一同の形で大ホール入口に飾るお祝いの花を贈りましょう」と提案、賛成多数で承認した。

６月９日、梅雨どきだったが晴天。夕方５時半過ぎにサントリーホールの前に着いた（開場は５時４５分）。次々に会員が集まって来た。武井英明君は「武村とは長野高校で同級生、お祝いに駆け付けた」と言う。小田原から新幹線で来た萩野太郎君はご夫婦での参加。懇親会でジャズを歌ってくれた鹿島利友君も「ミュージシャン同志、喜んで応援します」と川口市からご夫婦で来場。副会長の平井輝久君はなんと主治医の女医さんと一緒だった。４０年会のイベント参加常連組の他に、公認会計士の神山敏夫君の姿もあった。会員やその連れも含めて２５名の参加だった。ホール入口には大泉会長が日比谷花壇に発注したスタンド花が届いていた。「本日は１３００人のお客さんですね」とホール関係者。赤坂のサントリホールにこれだけのお客さんが集まるのも、特訓と同時にピアノを弾 く楽しさを教えているからだろう。

第１部は「ピアノ・ストーリー」。最初に白いドレスの武村八重子さんが1人で登場、ションの「夢見」を華麗に弾き、コンサートの幕がいた。この後で教え子の社長さん達が1人づつ舞台に登場して弾いていく。２０１２年より脳科学に基づいた独自のピアノレッスン「武村メソッド」で、ピアノ教室を開いている。「ピアノがまったく弾けない人でも１カ月で弾けるようになります」という教室で、クラシック好きの若い社長さんや起業家を相手にマンツーマンでし指導している。なかには５年以上通っている社長さんもいとか。本公演はこのメソッドの１０周年記念であり、お披露目の会になっている。

教え子の演奏にはパントマイムが付いており、１人の男の幼い日の夢から挫折、失意、希望、別れなどのイメージに合わせ弾いていく。パントマイムの衣装も曲に合わせて白や黒に変わっていく演出だ。ベートーブェンの「月光」を弾いた岩井陽介さん、ショパンの「英雄」を弾いた谷本肇さんのピアノが筆者の心に残った。

**＜第２部は「Ｏver　tｈe Amazing Rainbow」と題したコンサート。**

**武村八重子さんのピアノの他に若手音楽家のＭＵＴＩＡも登場＞**

午後８時１０分から始まった第２部の最初はピアノの連。しかし演者の１人が体調不良のために欠席、武村八重子さんが急遽登壇して、アーレンの「Over　tｈe Rainbow」２人で弾く。武村さんの衣装は真っ赤なドレスに変わっていた。次は、彼女のソロでショパンの「舟歌」と「幻想即興曲」、何度も聞いている曲だが、誰もがすれ違い愛し合う世界がモノトーンで描かれているように聞こえるのは筆者だけの印象か？！ピアノの詩人」と呼ばれるショパンの代表曲だ。弾き終わって挨拶。「クラシックの聖地と呼ばれる赤坂サントリーホール大ホールの舞台に立つのはクラシックに身を置く音楽家たちの夢です。このコンサートは私の４０年のピアノ人生を賭けています。最後までお楽しみ下さい」と、夢が叶った喜びを話す。

４番目にひいた佐藤信也さんはムソルグスキーの「展覧会の絵」よりプロムナードと「キエフの大門。「ウクライナの首都キエフ（キーウ）でロシアの侵略による戦争が始まりました。このタイミングで演奏することは、平和への祈りを込めて演奏しました」と壇上から話かけた。

６番目に、武村さんがプロデュースした女性だけの「MUTIA」もドレス姿で演奏。最後は武村さんのピアノにヴァイオリンやチェロ、サックスなどの女性演者が加わってエルガーの行進曲「威風堂々」。この曲は筆者が女性週刊誌記者時代に、重要な取材がある日は家を出る前に聞いて、気分を奮い立たせた曲。いつもＣＤで聞いていた曲の感じとは違うが、新しい「威風堂々」を聞いたようで清々しい想いになった。

９時２０分過ぎにコンサートは終了。大ホールのエントランスに飾られた祝い花の前で有志が記念撮影をして三々五々解散した。来年も円熟の極み、エッジのきいたショパンを聞きたいものだ。（大泉　清）